

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

児童数 1084名

令和8年6月1日号



AIが東大に「首席合格」 これからの社会に必要な力とは

校長 こじま たかし 小島 孝之

4月28日の埼玉新聞に、今年実施された東大と京大の入学試験問題を生成人工知能（AI）「チャットGPT」に解かせると、合格者の最高得点を上回り「首席合格」を果たしたことが27日、AIベンチャーのライフプロンプト（東京）の分析で分かった、という記事が掲載されていました。最難関の東大理科3類の最高得点より50点高かったとのことで、数学は満点を獲得したとも書いてありました。

遅かれ早かれ、こういったことは予測していたところですがもうすでに、知識量では人間と比べ物にならないほど進歩していて、そのスピードも速く、正確に解答を導き出すことができるそうです。ただ、要約する問題や論述面では得点が伸びなかった、とのことですが、その点も今後改善されるかもしれません。このような時代において、子供たちが獲得すべき本当に必要な学力とは何だろうか、と改めて考えてみました。

	配点	合格者 最高点	AIの 得点
東大文科3類	550	434	452
東大理科3類	550	453	503
京大法学部	885	734	771
京大医学部医学科	1275	1098	1176

【R8, 4, 28 埼玉新聞より】

文部科学省は学力について「①基礎的な知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度」と定義しています。私が小学校の時代は教科書の内容を正確に、たくさん覚えているかという知識量が重視されていたと思います。しかし、現代は知識の量があることの価値が下がり、世の中にあふれているたくさんの情報から、何が正しいのか取捨選択しながら見極め、他者と協力しながら新しい価値を創造していくことが求められてきていると感じています。

別の言葉で言い換えると、「認知能力」というテストの点数で測れる知的な能力が今まで重要視されていましたが、今後は「非認知能力」という、目には見えにくい「やる気」や「忍耐力」「主体性」「自己肯定感」「コミュニケーション力」などの内面的な力の重要性が高まってきていると感じています。

こういうことを書くと、入試がペーパーテストだから…という声も聞こえてきそうですが、埼玉県では来年度の公立高校入試よりすべての受験生への面接が導入されます。その理由は、学力検査だけではなく、受験生の能力や意欲を多面的・多角的に評価をするためです。そして、面接の最初に受験生が1分30秒から2分程度で、今まで力を注いできたことや、将来取り組んでみたいことなどを自分の言葉で表現して伝える時間があります。その後、質疑・応答の時間が3分30秒から6分程度あるそうです。

面接の評価は①主体的・協働的に学び続ける意欲 ②自らのよさや可能性を認識し、社会の未来を切り開こうとする力 ③各高校が定めた評価項目、の3観点についてそれぞれ3段階で評価するとのこと。

話は戻りますが、子供たちが将来、世の中の荒波を乗り越えて、たくましく生きていくために我々教職員が大事にしなければならないことは何か。それは、正解だけを教えるのではなく、「どうしてそうなるのか」「あなたならどう考えるのか」を真剣に子供に問いかけることだと思います。子供が様々な事象にふれ、自分事として問いを持ち、探究的な学びの中で、様々な人と関わりながら視野を広げていくこと。そして、新しい価値観や納得解を生み出すこと。さらに、自分の言葉で語れることだと思います。人が人にしかできない力を六小では育てていきます。